



一般用医薬品 8 カテゴリー 34 品目の市場を調査

2011年市場

解熱鎮痛剤は前年比6.9%増の386億円

26年ぶりのスイッチOTCとなる「ロキソニンS」が大きく貢献、2012年は微増

鼻炎治療剤は前年比19.4%増の203億円

2010年が猛暑で花粉が大量飛散、2012年は2011年の反動で縮小

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、2011年12月から一般用医薬品17カテゴリー68品目の国内市場を調査している。調査は2回に分けて行い、今回はその第二弾で、総合感冒薬、解熱鎮痛剤、鼻炎治療剤、制酸薬、歯槽膿漏治療剤、目薬など、8カテゴリー34品目の市場を調査・分析した。その結果を報告書「一般用医薬品データブック 2012 No.2」にまとめた。

この報告書では感冒関連用薬6品目、花粉症関連用薬2品目、生活習慣病関連用薬4品目、生活改善薬5品目、胃腸・消化器官用薬10品目、オーラル関連用薬3品目、感覚器官用薬3品目、漢方薬1品目を取り上げている。

<調査結果の概要> 主なカテゴリー別市場と注目市場

1. 感冒関連用薬

	2011年	前年比	2012年見込	前年比
感冒関連用薬	1,236億円	100.7%	1,246億円	100.8%
解熱鎮痛剤	386億円	106.9%	387億円	100.3%

感冒関連用薬は、総合感冒薬、葛根湯液、解熱鎮痛剤、鎮咳去痰剤、含嗽剤、殺菌塗布剤の6品目を対象としている。2011年の市場は前年比0.7%増の1,236億円となった。3年ぶりのプラス成長を牽引したのは解熱鎮痛剤である。

2011年の解熱鎮痛剤市場は前年比6.9%増の386億円となった。解熱鎮痛剤では26年ぶりのスイッチOTCとなる「ロキソニンS」（第一三共ヘルスケア）の発売が大きく貢献した。「ロキソニンS」が初年から実績を伸ばすとともに、参入各社が実績を死守すべくTVCMの投下などプロモーションを強化したことで市場が活性化し、実に4年ぶりのプラス成長となった。

当面「ロキソニンS」は安定した伸びが予想されるが、競合により需要を奪われる製品があることや、風邪需要に関しては各種症状に合わせた製品がラインアップされている総合感冒薬への流出も懸念されることから、今後の市場は微増に留まると見られる。

2. 花粉症関連用薬

	2011年	前年比	2012年見込	前年比
花粉症関連用薬	217億円	117.9%	199億円	91.7%
鼻炎治療剤	203億円	119.4%	185億円	91.1%
抗ヒスタミン剤	14億円	100.0%	14億円	100.0%

花粉症関連用薬は、鼻炎治療剤、抗ヒスタミン剤の2品目を対象としている。2011年の市場は前年比17.9%増の217億円となった。鼻炎治療剤が市場拡大を牽引した。

2011年の鼻炎治療剤市場は前年比19.4%増の203億円となった。2010年は花粉の飛散量が少なく市場は前年割れとなったが、2011年は2010年が猛暑であったことから花粉が大量飛散し、既存品、新製品とも大幅に実績を伸ばした。2012年は2011年後半から新製品が相次いで投入されているが、花粉の飛散量が多くないことや2011年の拡大の反動もあり市場は縮小が見込まれる。

抗ヒスタミン剤市場は、鼻炎治療剤との併用療法で展開され、底堅い需要があり横ばいで推移している。2011年も花粉の飛散量は多かったが、販売を中止した製品があり横ばいとなった。今後も市場は横ばいが予想される。

3. 胃腸・消化器官用薬

	2011年	前年比	2012年見込	前年比
胃腸・消化器官用薬	724億円	98.4%	717億円	99.0%
制酸薬	87億円	102.4%	88億円	101.1%

胃腸・消化器官用薬は、総合胃腸薬、健胃・消化薬、制酸薬、鎮痛痙攣胃腸薬、整腸薬、駆虫薬など、10品目を対象としている。2011年の市場は前年比1.6%減の724億円となった。制酸薬と駆虫薬（横ばい）以外はマイナス成長となった。

2011年の制酸薬市場は前年比2.4%増の87億円となった。2010年は「セルベール」（エーザイ）や「ガストール」（エスエス製薬）などが実績を伸ばし、2005年以来のプラス成長となった。「セルベール」と「ガストール」は弱った胃の働きやストレスに伴う胃の不調を改善することを前面に出して需要を獲得し、2011年も好調を維持したことからプラス成長が続いた。2012年も前年比1.1%増が見込まれる。

4. オーラル関連用薬

	2011年	前年比	2012年見込	前年比
オーラル関連用薬	110億円	103.8%	111億円	100.9%
口内炎治療剤	30億円	115.4%	32億円	106.7%

オーラル関連用薬は、歯槽膿漏治療剤、外用歯痛剤、口内炎治療剤の3品目を対象としている。2011年の市場は前年比3.8%増の110億円となった。歯槽膿漏治療剤や外用歯痛剤は前年比横ばいであったが、口内炎治療剤が拡大し市場を牽引した。

2011年の口内炎治療剤市場は前年比15.4%増の30億円となった。マイナス推移が続いていた市場であるが、2006年12月にスイッチOTC「アフタッチA」（佐藤製薬）が発売され、2007年に拡大に転じた。2008年には「トラフル錠」（第一三共ヘルスケア）が発売され、ヒット商品となった。「トラフル錠」がヒットしたことで口内炎治療剤の認知度が向上し拡大が続いている。2011年は1月に第一類から指定第二類に移行した「アフタッチA」が実績を大きく伸ばし、市場が拡大した。2012年は1月にリニューアル発売した「ケナログA口腔用軟膏」（プリストル・マイヤーズ）の実績増も予想されるため、市場は前年比6.7%増の32億円が見込まれる。

< 調査対象 >

感冒関連用薬	6品目	総合感冒薬、葛根湯液、解熱鎮痛剤、鎮咳去痰剤、含嗽剤、殺菌塗布剤
花粉症関連用薬	2品目	鼻炎治療剤、抗ヒスタミン剤
生活習慣病関連用薬	4品目	肥満防止剤、血清高コレステロール改善薬、強心剤、尿糖・尿蛋白検査薬
生活改善薬	5品目	禁煙補助剤、頻尿・尿もれ改善薬、催眠鎮静剤、眠気倦怠防止剤、育毛剤
胃腸・消化器官用薬	10品目	総合胃腸薬、健胃・消化薬、制酸薬、鎮痛痙攣胃腸薬、胃腸内服液、整腸薬、止瀉薬、便秘薬、駆虫薬、痔疾用薬
オーラル関連用薬	3品目	歯槽膿漏治療剤、外用歯痛剤、口内炎治療剤
感覚器官用薬	3品目	目薬、耳疾患用剤、ビタミンA・D主薬製剤
漢方薬	1品目	漢方処方エキス製剤

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による参入企業、関連団体等への面接又は電話によるヒアリング、社内データベースの活用

< 調査期間 >

2012年2月～4月

以上

資料タイトル	：「一般用医薬品データブック 2012 No.2」
体裁	：A4判 308頁
価格	：150,000円(税込み157,500円) 書籍・電子版セット 170,000円(税込み178,500円)
調査・編集	：富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	：株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/